



佐藤蘭さん 本寺中1年

「寒くてつらかったけど、長い歴史がある行事なのでやりがいを感じました。伝統を受け継いでいきたいです」



國廣利紗さん 岩手大3年

「景観だけでなく、地域の文化や人の温かさとも本寺の魅力。参加して良かった。来年も必ず参加します」



本寺地区地域づくり推進協議会 佐藤 勲会長

先人の思いを体感できる伝統行事です。最近、若い人たちの参加が増えて、とてもうれしく思います。



1 吹雪の中を中尊寺目指して歩く一行／2 出発式が行われた駒形根神社／3 出発式で祝辞を述べる田代副市長／4 雪中、ホラ貝の重厚な響きがこだまする／5 108人の大行列は大迫力／6 慈恵大師拝殿で1年の実りに感謝し無病息災を祈る／7 拝殿内で祈禱する経蔵別当の菅原光中住職／8 行列は平泉町内へ／9 中尊寺が近付き笑顔も／10 参道に続く急な坂道に登る／11 参道を練り歩く／12 奉納読経が行われた中尊寺経蔵／13 本寺の特産品「南部一郎かぼちゃ」を奉納／14 読経が響く経蔵前は、木漏れ日と風に舞う雪で幻想的な空間に

吹雪 雪の荘園にホラ貝が響く。背中に米俵やまきを背負った白装束の大行列は、映画のロケをほうふつとさせる。「骨寺村荘園中尊寺米納め」(本寺地区地域づくり推進協議会主催)は昨年12月15日に行われ、県内外から参加した108人が中尊寺経蔵へ米やまきなどを奉納した。駒形根神社で行われた出発式で安全を祈願した一行は雪中、中尊寺を目指して出発。本寺川沿いの雪深い道を慈恵大師拝殿まで歩いた。その後、平泉町へ移動。町内を練り歩き、いよいよ中尊寺へ。町民や観光客らに見守られながら月見坂を上って経蔵入りした。

同協議会専門部長の高橋博さんが、参加した108人の名前を読み上げ、名簿を献上。米、まきや特産品の「南部一郎かぼちゃ」などを経蔵内に奉納した。出迎えた中尊寺の山田俊和貫首は「困難な道を越えて、奉納されたことに感謝します。いつまでも荘園米が豊かに実ることを願います」とねぎらい、経蔵別当の菅原光中住職は奉納読経を行った。経蔵別当・自在房蓮光が所有する骨寺村は、初代藤原清衡公の時代から300年にわたって中尊寺を支えた荘園。第二次大戦後、途絶えていた「米納め」を06年に同協議会が復活させた。7回目の今年は、地元本寺中の生徒、岩手大や東北芸術工科大の学生など若い世代の参加が多く、行列は過去最高の108人。同協議会の佐藤勲会長は「先人の営みや荘園の歴史的、文化的価値を次世代に伝え、古里への誇りや愛着を醸成することが私たちの使命」と伝統継承に力を込めた。

「骨寺村荘園中尊寺米納め」

継ぎゆく者たち

「先人の思い」と変わらぬ伝統を未来へ

	3	2
	5	4
	7	6
		1
14	11	8
		9
		10
	13	12